

# 伊予農高 同窓会報

〈発行者〉  
伊予農業高等学校  
同窓会事務局  
〒799-3111  
伊予市下吾川1433  
TEL 089-982-1225



## 卒業生の皆様へ

同窓会長 甘井 清久

こんにちは。愛媛県立伊予農業高等学校同窓会長の甘井清久です。このたびは、2026年3月にご卒業を迎えられる皆様に、心よりお祝い申し上げます。同窓会を代表し、皆様の門出にあたり、一言お祝いとエールをお伝えできることを大変うれしく思います。

伊予農業高等学校で過ごした日々は、皆様にとって決して平坦なものばかりではなかったことでしょう。実習や研究、部活動、行事を通して、思うようにいかないこと、壁にぶつかることもあったと思います。しかし、そうした一つ一つの経験こそが、皆様を大きく成長させ、確かな力として今の皆様を形づくっています。

本年度も伊予農では、各学科において特色ある学びが積み重ねられました。園芸流通科では、果樹や野菜、草花の栽培管理、フラワーデザインや地域への花の提供など、学びを地域社会へと還元する実践が行われました。食品化学科では、農産物の加工や収穫を通じて「食の安全」と「ものづくり」の大切さを学び、生活科学科では、保育実践や交流活動を通して、人と向き合う力を育ててきました。それぞれの学びは、知識や技術だけでなく、「人とのつながり」「地域に貢献する姿勢」を皆様に教えてくれたはずで

また、部活動においても多くの成果がありました。運動部では、ライフル射撃部が四国大会・全国選抜大会につながる優秀な成績を収め、卓球部やバスケットボール部、サッカー部、野球部をはじめとする各部が、勝敗を超えて粘り強く挑

戦する姿を見せてくれました。文化部においても、吹奏楽部や各文化部が学校行事や発表の場で活躍し、伊予農の魅力を内外に発信してくれました。仲間と目標に向かって努力した経験は、これからの人生において必ず皆様の支えとなるでしょう。

卒業後、皆様が進む道はそれぞれ異なります。農業や食品、福祉の分野に進む方もいれば、まったく新しい分野に挑戦する方もいることでしょう。どの道を選んだとしても、伊予農で学んだ「根気強さ」「協力する心」「地域を思う気持ち」は、必ず皆様の人生を支えてくれるはずで

社会に出れば、思い通りにならないことや迷いに直面することもあるでしょう。そんなときには、伊予農での日々を思い出してください。そして、皆様には「同窓会」という大きなつながりがあることを忘れないでください。同窓会は、卒業生同士が支え合い、母校と共につながり続ける大切な場所です。

最後に、卒業生の皆様に贈りたい言葉があります。「未来は、自分の手の中にある。」伊予農で培った学びと経験を力に変え、自信を持って、それぞれの人生を歩んでいってください。

皆様がこれからも実り多い人生を送られることを、心より願っております。そして、いつでも母校に、同窓会に、帰ってきてください。同窓会で皆様と再会できる日を、楽しみにしています。

卒業生の皆様の未来に幸多からんことを祈念し、同窓会長としての挨拶とさせていただきます。



## 御挨拶

校長 永井 伊秀

本年度より校長として赴任しました永井伊秀(ながいよしひで)と申します。大洲農業高校から転勤してまいりました。出身は八幡浜なので、少し遠くなりました。私は農業科の教員ですが、実は本校に勤務するのは初めてです。東予や南予の学校に勤務していましたので、周りの先生方から意外ですねとよく言われています。しかしながら愛媛県最大の農業専門高校であり、愛媛県内の農業高校の基幹校である本校に勤務できることを誇りに精一杯頑張ろうと思いますので、よろしく願いいたします。

4月に216名の新入生を迎え入れ、全校生徒596名で今年度がスタートしました。216名は、過去5年間で最も多い入学生徒数です。これも同窓生の皆様方や地域の皆様方の本校の教育活動に対する御理解、御支援の賜物であると思います。この生徒数に満足することなく、日々の教育活動に努めていきたいと思

さて、今年度を振り返ってみますと、まず、6月初めに行われました県総体では、中予予選を勝ち抜いた117名の生徒が出場しました。なかでもライフル射撃部は、1年生が46名も入部し、総部員数70名と大所帯となり、男子は9連覇9度目の優勝、女子は4年連続8度目の優勝を飾ることができました。四国総体においても女子エアライフルで3位、女子ビームピストルで3位に入賞したほか、インターハイ、国民スポーツ大会にも出場し本校にとって欠かせない部活動となっています。また、女子卓球部の新谷さんがシングルスで

県総体ベスト8に入り、昨年度に引き続き四国総体出場を果たしました。

農業クラブ活動におきましては、5月にエミフルMASAKIで行われましたフラワーデザイン競技県大会で3年生園芸流通科の西園寺さんが優秀賞・作品賞を獲得、6月に行われた家畜審査競技県大会では、肉牛の部で3年生生物工学科の田丸さんが最優秀賞、乳牛の部で同じく3年生生物工学科の小倉さんが優秀賞、総合の部でも最優秀賞を受賞しました。

学校行事においては、猛暑対策として、運動会をしおさい公園体育館で開催しました。熱中症等の生徒の体調管理を最優先して実施しました。おかげさまで当日の熱中症は皆無で観覧していただいた保護者の皆様からも大好評でした。来年度も引き続き屋内で開催しようと思っています。

それから、姉妹校提携を結んでいます台湾台中市の新社高級中学の林校長先生はじめ4名の先生方が6月に本校を訪問し、本校生徒の授業や農場を参観していただきました。来年度、まだ日程は決まっていますが、新社高級中学の生徒約10名が来日し、本校生徒との交流活動を実施する予定です。

新社高級中学とはコロナ禍で一時期、交流が途絶えていましたが、交流を再開し、再来年度には本校生徒が台湾へ渡航し高校生ならではの交流活動を計画しています。

このように、部活動をはじめ6学科を有する農業高校ならではの活動や国際交流についても積極的に活動してまいりますので、同窓生の皆様には、今後とも本校の教育活動につきまして御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 生物工学科の諸活動

#### ○教育目標の紹介

生物工学科では、「植物バイオテクノロジーに関する基本的な知識と技術を習得し、生物産業の進展に積極的に対応できる人材の育成」を目標に、実習や実験、日々の授業に取り組んでいます。この目標に従って、次のような学習活動目標に重点を置いて活動しています。

- 1 各種植物の培養・栽培並びに動物の飼育や肥育、繁殖について実験・実習を中心に学習し、基礎・基本の知識や技術を習得し、命の大切さや自然や動物に感動する心を育み、専門的な技術を体得する。
- 2 実験・実習を通して段取り力を身に付けさせ、自ら考え、行動する力を養わせ、また、仲間と協力しながら活動し、目標を達成する。
- 3 地域社会との交流を通して、自信をつけ、行動力・コミュニケーション能力を育成し、農業技術の改善や地域社会に貢献できる能力と態度を養う。

#### ○主な科目の紹介

##### 「植物バイオテクノロジー」

ラン類の培養・増殖をメインに、自然薯のウイルスフリー苗の培養やもろみ製造免許を活用したアルコール等の発酵を学習しています。ランを培養することでクローンを増殖し、草花班

に育成・販売をしてもらっています。広田村で定植実習や自然薯の販売をしました。アルコール濃度を測定したり、酢酸発酵やクエン酸発酵、他にもPCR反応等を学習したりしました。

##### 「草花」

シンビジウムやコショウラン等のラン類の栽培、しおさい公園やウエルピア伊予での季節の花苗の定植や管理活動を通して地域の環境美化に努めています。また、とりのきくじら保育園での多肉植物の寄せ植え体験活動や花壇への花苗定植と管理活動を行ったり、ユニットぐんちゅうでの野菜苗や花苗定植、管理作業を通して園芸セラピー活動を行いコミュニケーション能力が身に付いています。

今年度は開催できませんでしたが、3月恒例となっている「伊予農ラン販売会」では、温室や温室前実習室を会場にシンビジウムやコショウラン、オンシジウムなどを展示販売し、毎年、多くの方が来校され、大盛況です。

##### 「畜産」

豚や鶏の飼育や管理を通して、食や生命の大切さについて学んでいます。除糞や給餌では、生徒たちは、仲間と協力することや要領を考えたり、家畜の日々の変化を感じ取ったりすることの大切さを実感し、身に付けています。今年度は出

産直後の母豚が急死し、専攻生総出で人工哺育を行いました。専攻生の多くが卒業後も動物関係の仕事に就くことを希望しています。

##### 「農業と環境」

1年生が、アイガモ農法による水稲栽培を実施しています。6月に一丁地農場の水田に田植えをし、苗が生長したあとで、アイガモを水田に放ちます。秋には、稲刈りをして美味しいお米を収穫します。水田の雑草やタニシを餌に育ったアイガモは、役目を終えた冬休みに解体実習で食肉として利用します。食料を生産することと家畜の生命、環境や持続可能性など多くの視点から農業を学び、考えを深めています。この他にもスイカやハクサイの栽培も行いました。

##### 「私たちの生活と動物」

哺乳類の特徴を座学で学び、ウサギやハトの飼育管理を通して、動物の適切な世話について理解を深めています。ブラッシングや爪切り、健康状態のチェック方法など、日常的なケアの実習を行い、動物との関わり方を実践的に学びます。また、放課後は当番制で継続的にお世話を行い、責任感や協調性も育てています。昼休みには学科や学年を問わず、多くの生徒がウサギやハトと触れ合い、心が癒されています。



### 食品化学科の諸活動

食品化学科では、急速に発展している食品製造業に関する基本的な知識と技術を習得し、地域食品産業に関わる仕事に従事する技術者の育成を目指しています。「農業と環境」「生物活用」では、実際に圃場管理を通して農作物の栽培から食品の加工までを学習し、教室で学習したことを実際に体験することによって理解を深めています。最終学年である3年生では、食品や農業に関するテーマを自分で設定して研究する「課題研究」があり、自ら意欲的に取り組んでいます。

#### 1 目標

- (1) 地域に開かれた特色ある学科作りと地域関係機関との連携を密にした授業の展開。
- (2) 農業クラブ活動を積極的に行い、各種大会やコンテストでの入賞を目指す。
- (3) 食品化学に関する知識を身に付け、地域社会の人材の育成を目指す。

#### 2 プロジェクト学習

##### 「食品製造A」

研究テーマを「地域特産品の開発」として、様々な商品を開発しています。中予地方局より依頼を受け、里芋の一種で

ある「媛かぐや」に注目し、それをPRできる新しい商品ができることを目標に掲げ、活動に取り組んでいます。今後は圃場で栽培した「媛かぐや」を冷凍保存して必要に応じて使える工夫をしていこうと考えています。現在、試行錯誤しながら開発を継続しているところです。

##### 「食品製造B」

研究のテーマを「愛媛の特産物を活用した新商品の開発」とし収穫量38年連続日本一を誇る「裸麦」を利用し、今年度は県内企業と連携した冷凍食品「コロッケ」の商品開発を継続中です。実際に県や企業の方々にプレゼンテーションを通して途中経過を報告することができ、生徒の自信となりました。今後も注目したい活動です。

##### 「食品化学」

研究テーマを「廃油の利用ふたたび」として研究をはじめたところです。今から20年以上前に食品化学班で活動していたことを知り計画しました。アンケート調査をはじめ、懇談会での普及活動、石けんやキャンドル、BDFの試作も行い、環境NPO法人を訪問し評価をいただきました。これから発展する研究とし

て期待しています。

##### 「応用微生物」

研究テーマを「エディブルペーパー」（食べられる紙）として継続研究をしています。愛媛県は寒天の原料となるテングサが伊予市双海町で収穫されていることに注目し、それを糊料としてペーパーを試作し、農業祭や中学生の体験入学の時に展示・発表を行いました。これらの持つ新しい可能性を発見する活動でした。

その他として、農業クラブ全国大会鑑定競技「食品」部門では2年連続優秀、また、意見発表第1回県大会では優秀、プロジェクト発表の部門では食品製造A班、食品化学班、応用微生物班の3部門が出場し食品化学科の活動を県下のクラブ員に広く紹介することができました。また、今年度2年生の有志が「一日食品衛生監視員」の活動に参加し、食品を安全に取り扱う工夫についての知識を身に付けることができました。

食品化学科では今後も学科の特性を生かした取組を意欲的に行い、地域活性化に貢献していきたいと思ひます。



## 同窓会活動報告

### 令和7年度同窓会総会

令和7年8月3日(日)、ウェルピア伊予において令和7年度同窓会総会が開催されました。

甘井同窓会長・永井校長の挨拶に続いて議事に入り、令和6年度事業報告・会計決算報告・監査報告、令和7年度事業計画・予算案審議を行いました。宮本余史生さん、松永泰さんを新たに副会長とする役員案が賛成多数で承認されました。

総会後の懇親会では、転入教職員の紹介が行われ、久しぶりの顔ぶれに話が弾み、令和7年度同窓会総会を終えることができました。



同窓会総会の様子



甘井同窓会長挨拶

### 令和7年度農業祭

令和7年11月8日(土)に「汗と愛の大収穫祭 伊予から届ける感謝～伝統を植え 地域に根差し 農業の花よ開け～」のテーマのもと、農業祭が開催されました。

#### ○校史展

校史展では、同窓会の教員を中心に過去の同窓会報や卒業アルバム、写真等を展示。在学当時を懐かしむ同窓生の姿がみられました。

#### ○学農連盟

農業を営む同窓生等が、生産した農産物を販売しました。



学農連の農産物販売

## 在校生の活躍

### フラワーデザイン競技県大会に出場して

西園寺 萌衣



私は昨年引き続きフラワーデザイン競技県大会に出場しました。昨年よりもいい作品を作れるように試行錯誤を繰り返しました。また二回目の大会出場ということもあり、一回目とは違った緊張感で取り組むことができ、いい経験となりました。実際に練習が始まり昨年の作品をベースに新たに手を加えて制作することに決めました。本格的に花を挿し始め

先生にアドバイスをもらいながら進めていきました。横の作品を作るためそれぞれの花の向きや使い方を理解し、花が一番綺麗に見えるように挿すのは難しかったです。五月中旬には講習会がありました。講師の先生の話聞き、各々が作品作りに取り組みました。時間が設けられているため大変でしたが、完成した作品を見てもらいアドバイスをもらうことができました。アドバイスを取り入れ本番に向けて練習を頑張りました。花の長さや挿す場所など、もう一度確認し本番同様に練習を進めました。手際もよくなりスムーズに作業ができ本番に向けて自信がつき大会が楽しみになりました。競技当日は少し緊張しましたが、競技が始まるとリラックスしながら作業をすること

ことができました。練習では花が咲いていたけれど本番では咲いていない花などがありました。上手く活用することができたと思います。また時間に余裕がなくなり焦りましたが今まで一番自信のある作品を作ることができました。結果は優秀賞と作品賞をもらうことができ、改めて出場してよかったと思い、また昨年より多くの賞をもらえて嬉しかったです。フラワーデザイン競技県大会に出場し貴重な経験をする事ができました。また花をより好きになるきっかけとなりました。私はこの経験から何事にも進んで取り組むことで多くの学びや達成感を得られると感じました。今回学んだ知識や技術をこれから活かし高校卒業後も花に触れる機会を大切にしていきたいです。

### 家畜審査競技県大会に出場して

田丸 黎



私は昨年の大会でも肉牛の部に出場しましたが、自分の納得がいく結果で終わることができず、とても悔しい結果で終わってしまいました。そのまま三年生になってしまったときに「去年の悔しい結果を晴らすために、もう一度肉牛の部で出場してみない？」と高内先生に声をか

けてもらい、自分も去年の雪辱を晴らしたいと思い、もう一度チャレンジすることを決めました。初めて出場した去年よりも競技の内容は理解できていましたし、放課後の勉強会を行った時期が早かったのもあり、細かい部分まで勉強することができました。また、実際の会場である西予市にある農林水産研究所へ事前学習会に行った時も、以前聞いた内容と聞くことができなかった内容をどちらもしっかり覚え、大会本番に臨みました。そもそも家畜審査競技とは、成牛4頭と子牛4頭を見て審査を行い、良い和牛は骨がしっかりしていて、背がまっすぐで、肉付きがよいものが優秀な牛として審査さ

れるものです。私は本番そこまで緊張せずに受けることができ、牛の審査も勉強会をした内容を生かし、スラスラと解くことができ、今回は自分でも順位を上げることができたという自信がありました。その結果、最優秀賞をもらうことができました。自分の中ではまさか最優秀賞をもらうとは思わずビックリしました。今回のこの経験を活かし、諦めないことがとても大切で、その努力はいつか報われると思えました。自分は動物にかかわる大学へ進学するので、そこでもこの家畜審査競技県大会で学んだことを活かし、難しいことも諦めず取り組んでいけるように頑張っていきたいです。

### 土壌肥料学会高校生ポスター発表 優秀賞を受賞して

小松 葵



1年次の愛媛大会で肥料殻についての研究を発表し、その後も肥料殻に関する研究を継続してきました。新潟大会が開催されることを知り、3年間の研究成果の集大成をここで発表したいと考えたことが参加のきっかけです。私にとって2

度目の土壌肥料学会高校生発表は、研究の進捗や、自身の成長を実感できるものとなりました。1年次に参加したポスター発表では多くの方に興味を持っていただいたにもかかわらず、質問の意図が分からず答えに詰まってしまうなど、優秀賞をいただいたものの、よく分からないままに時間が過ぎてしまったと記憶しています。

その時のことを振り返ると、私は研究のうわべだけの理解で本質的なことは何も分からないままに臨んでいたのだと思います。この経験から「自分の行っている調査は、何のために必要なのか」とい

う視点を常に持ちながら一つ一つの調査に取り組むようになりました。研究の意味を自ら考えながら取り組んできたことで、今回のポスター発表では自信を持って説明ができ、また質疑に対してもしっかりと自分の考えを伝えることができたと感じています。

多くの方々と議論を交わしたり、アドバイスをいただいたりする中で、研究をさらに深める方法や、新たな視点を得ることができました。あっという間の時間でしたが、実りある充実した経験ができたことに感謝いたします。

### 農業クラブ各種大会等出場結果

- 令和7年度フラワーデザイン競技県大会  
個人の部【優秀賞】【作品賞】園芸流通科3年 西園寺萌衣
- 令和7年度愛媛県学校農業クラブ連盟家畜審査競技県大会  
乳牛の部【優秀】 生物工学科3年 小倉 流音  
肉牛の部【最優秀】 生物工学科3年 田丸 黎  
総合の部【最優秀】 伊予農業高等学校
- 愛媛県学校農業クラブ連盟第1回各種発表県大会  
意見発表Ⅲ類【優秀】  
「『食』のちから～糸島の旅と農業高校での学びを通して～」  
食品化学科2年 島津 萌花
- 平板測量競技会  
【優秀】 園芸流通科2年 篠澤 怜、関口 晴郁  
篠崎 巧和、菅 優二郎
- 第76回全国大会（西関東大会）  
農業鑑定競技会  
分野：畜産【優秀】 生物工学科3年 柳原 永和  
分野：草花【優秀】 園芸流通科3年 宮本 結那  
分野：農業土木【優秀】 環境開発科3年 小坂 摩耶  
分野：食品【優秀】 食品化学科3年 上野 彩瑛

- 愛媛県学校農業クラブ連盟第2回各種発表県大会  
意見発表Ⅰ類【優秀】  
「私とピンキーの夏休み」 生物工学科2年 兵頭 桃果
- 意見発表Ⅱ類【優秀】  
「環境保全と異文化交流の経験を糧に、  
開発途上で挑む未来」  
環境開発科3年 小松 葵
- 意見発表Ⅲ類【優秀】  
「地域おこしは「農」にあり！」  
園芸流通科2年 篠澤 怜
- その他の受賞  
・日本土壌肥料学会2025年度新潟大会高校生による研究発表会  
【優秀ポスター賞】 環境開発科3年 小松 葵  
特用林産科1年 河端 桃希
- ・第3回石積み甲子園【優秀賞】 環境開発科3年 石積み班



### 生徒会・農業クラブ・家庭クラブ役員退任挨拶

**一応、生徒会長無事終えれました！**  
前生徒会長 兼久 伊吹

本日をもって、生徒会長としての役目を無事……たぶん無事に終えることになりました。この一年間を振り返ると、正直「思っていたより大変だった」というのが本音です。会長と聞くと、かっこよく決断していく姿を想像していましたが、実際は会議が長引き、意見がぶつかって一瞬空気が止まったりと、本当にいろいろありましたが、最後には「まあ、やるしかないよね」と前を向ける最高のメンバーでした。先生方には、私たちの無茶な提案や急な相談にも根気よく付き合ってくださいました。却下された案もたくさんありましたが、それも今では良い思い出です。

そして、全校生徒の皆さん。皆さんが動いてくれたからこそ、生徒会はちゃんと「生徒会」として成り立っていました。農業祭や体育祭、生徒総会などいろいろな場面で前に出てしゃべることがあり、その分多少はコミュニケーション能力や度胸もついたのでないかなと思います。生徒会長として過ごした時間は、成功も失敗も含めて、忘れられない経験です。行事運営や外部のイベントへの参加など様々な場面で経験してきたことは私の人生にとってかけがえのない、そして決して忘れられないものになりました。自分のやりたいことがうまくできず、生徒会長になったことを後悔した時もありましたが、とても大切な時間だったと今では思います。

私の役目はここで終わり、これからは新しい生徒会が、この学校をさらに楽しくしてくれるはず。私も一生徒として、静かに、でも心の中では全力で応援したいと思います。今まで本当にありがとうございました。

**農業クラブ会長を終えて**  
前農業クラブ会長 高橋 ころろ

私は3年間農業クラブ委員・役員として活動を行ってきました。1年生は委員会として所属していましたが、2、3年生では正式な役員として選ばれ、1年生の頃から農業クラブの活動に魅力を感じ、頂点まで登り詰めてきました。農業クラブ活動は忙しく、主に会長として校外での活動が多く大変でした。しかし、その活動を通して多くの人との交流や様々な経験を得ることができました。他校との交流の機会が多く、他の学校の活動内容を知ることで伊予農での活動の参考になり、とても勉強になりました。

校外の活動だけでなく、校内では農業クラブ役員が中心となって行う各種発表校内大会や農業祭等の運営・準備をしてきました。そして、私が掲げた公約である「ディベート対決」についてなのですが、残念ながら完全に実施することはできませんでした。生徒と教師の対等な関係の構築、校内の環境の改善は未達成のまま会長としての業務を終えてしまうのは残念です。ですが、新たな会長や農業クラブの役員である後輩の皆さんが引き継いでくれることを期待しています。伊予農業高校で行ってきた数々の活動は自分の成長に必要なものばかりでした。また、農業クラブ連盟の規模の大きさを実感しました。県をまたぎ、他校での取り組みを知ると自身の視野の狭さ、経験が足りないと感じました。そして、自分に足りない能力を培っていき、農業クラブ会長として、高校3年生として、ここまで来れました。ここまで来られたのは伊予農生や農業クラブ員である、皆さんのおかげです。3年間、応援をして下さり、ありがとうございました。今後も頑張ってください。

**家庭クラブ会長を終えて**  
前家庭クラブ会長 西園寺 萌衣

私は3年間、家庭クラブ活動に参加し、多くのことを学ぶことができました。今年度は、昨年度に引き続き、各学科で講習会の企画から準備、運営までを行いました。どの学科もそれぞれの特色を生かした活動で、参加したクラブ員の皆さんが楽しそうに取り組んでいる姿が印象に残っています。私自身も、楽しみながら知識や技術を身に付けることができ、とても良い経験になりました。

また、今年度から伊予高校と合同で家庭クラブ役員交流会を行いました。交流会では、それぞれの学校の取組について発表し、意見交換をしました。伊予高校の活動の中には、今後伊予農でも取り入れていきたいと思うものが多くあり、良い刺激を受けました。交流会では、スノードーム作りも一緒に行いました。材料を選ぶところから始まり、作業を進めるうちに自然と会話が生まれ、仲を深めることができました。完成したスノードームを机に並べて記念写真を撮ったことは、心に残る思い出です。とても充実した交流会になったと感じています。

最後になりましたが、多くのクラブ員の皆さんや役員の方々に、そして先生方に支えていただき、無事に会長を務めることができました。この1年間のさまざまな経験を通して、自分に自信が付き、大きく成長することができたと思います。本当にありがとうございました。家庭クラブ活動は、クラブ員一人一人の自主的な活動によって成り立っています。これからも、家庭クラブでの経験を通して、学校生活をより充実したものにしてほしいと願っています。

### 訃報

中村 佑 名誉会長

令和7年8月13日に本同窓会の発展にご尽力されました中村佑名誉会長がご逝去されました。これまでのご功績に対する深い感謝の念とともに、ご冥福をお祈りいたします。